

水門の自動化・遠隔化

総務産業常任委員会



自動化への切替工事（鼠地区）

総務産業常任委員会は5月9日（木）に町内にある水門の調査を行った。始めに役場にて担当課より水門についての説明を受け、その後、町内にある防災上主要な水門の中の5箇所を視察した。坂城地区の前田川にある用水は、昨年の夏の大雨の際、水門が停電のため稼働せず、浸水被害が起きてしまった。その後、対策として非常用電源の

設置がされた。

中之条地区と小網地区にある水門は、すでに自動化されており、開閉にかかる時間や水の流れ方を確認できた。

鼠地区にある水門は、自動化への工事中であり、工事関係者の方に直接質問ができる貴重な場となった。

上平地区の水門は、自動化されていないが、現在、県営事業として工事を進めている段階である。

今回の現地調査で、水門の手动操作の大変さを痛感した。昨今は、短時間で大雨になることが多く、水門の管理はできるだけ早く、安全に作業することが求められるている。時間のかかる手動から早く自動化・遠隔化することが不可欠であると強く感じた。

（山城 峻一）

文化センター改修工事と防災備蓄庫の状況確認

社会文教常任委員会



改修工事中の文化センター

社会文教常任委員会は5月14日（火）に文化センター1改修工事状況と町内防災備蓄倉庫3箇所を視察した。

文化センター1改修工事は、令和5年7月から行われ、6月中の完成予定である。

視察時の工事状況としては、耐震補強工事が終わり、内装工事が行われていた。中でも丸窓部分の耐震補強がしづらく、工事は大変であったようだ。1階大会議室は、特に音響に関して、改善を図った設計仕様として進めている説明があり、委員からは専門的な質問・

確認がなされた。

施設内容は大会議室、中会議室、多目的室、会議室（2室）、クラブ室（2室）と舞台控室が楽屋利用可能な2室へ改造されていた。

工事中のため、想像の域ではあるが、トイレや会議室なども間取りが大きく変わり、利便性が良くなると感じた。完成披露と利用が楽しみである。

次に、町防災備蓄庫設置場所として、南条の第3分団詰所横、村上第10分団詰所横、防災センターの備蓄状況を視察した。

保存食の備蓄は、町人口1万4千人の1割の3日分の食料を確保する方針としている。目標は12600食であり、現在備蓄数は14290食が確保できていることを理解した。

今後は廃棄を減らし、更新する工夫が必要であると感じた。

避難所のトイレ、生理用品、幼児むけ用品など備蓄量や内容は、今後改善が図られていくことを期待する。

（水出 康成）